



日本山岳会

高尾の森」

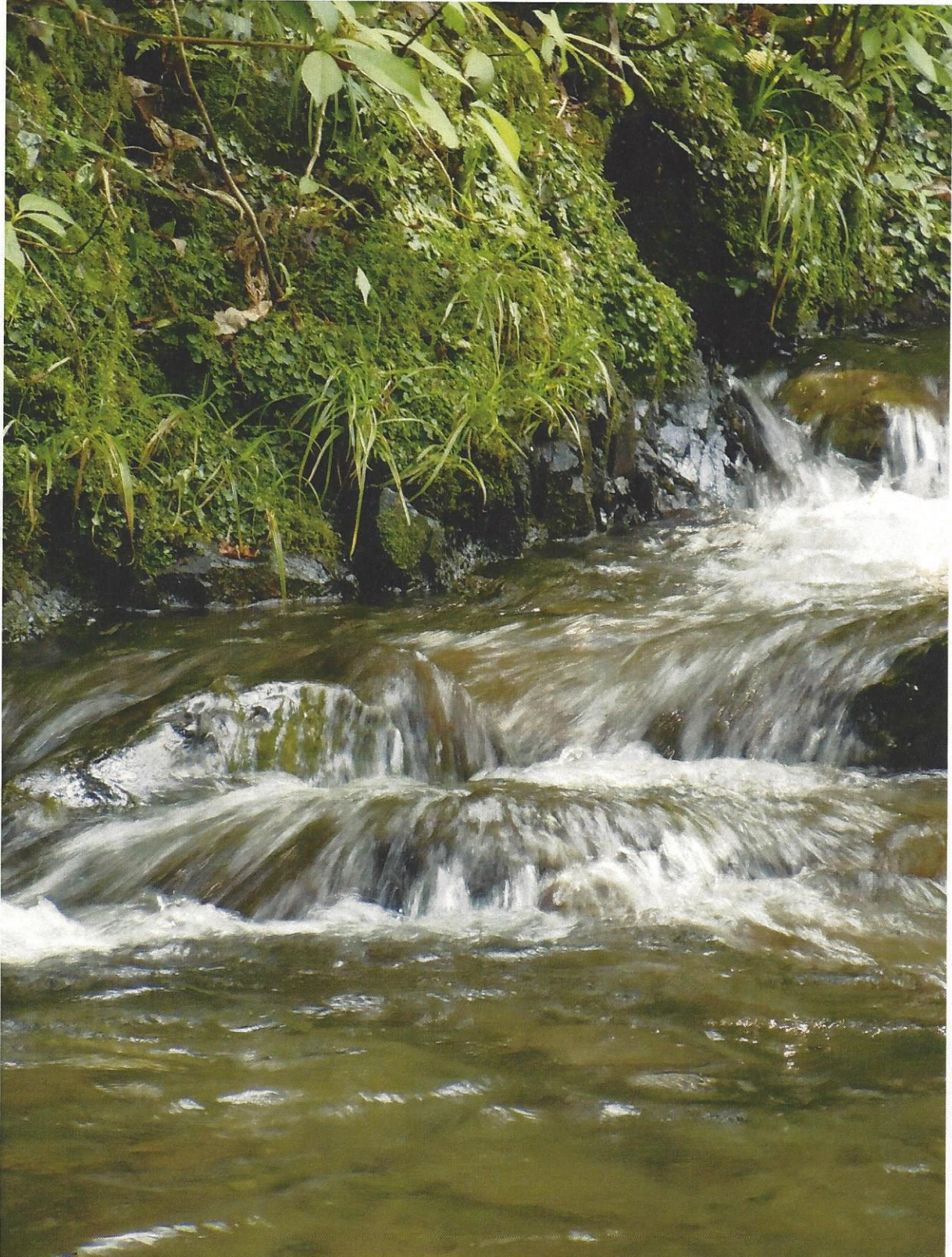


通信

<http://JACTakao.net>

vol.55

2014年8月29日発行



小下沢流域は梅雨明けを前に連日の雷雨となったようで、豊かな流れが夏の作業の疲れを癒してくれました。

目次

小下沢NOTE02
 第43回 森の研修会03
 植樹苗木生育調査報告04
 専門班紹介06
 第7回気仙沼大島プロジェクト作業報告 ...09

三宅島復旧支援プロジェクト報告10
 法人会員紹介10
 THEわが班紹介11
 事務局便り12
 「会員名簿」発行のお知らせ12

小下沢NOTE 夏



水生昆虫を探そう
親子体験教室
(6/14)



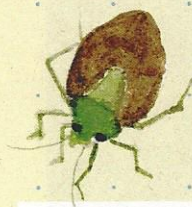
梅雨の晴れ間ベランダ塗装(7/3)



日影を求めひと休みC班(7/12)



チェーンソー特別講習会(8/3)



ぼく、
チャバネアオカメムシ。
ぼくの大好物は
スギヤヒノキの
種だよ。



携帯用ソーラバッテリー導入(8/9)



道具小屋やトイレの
灯りの確保も



草刈り前

高尾山一丁平草刈り支援(8/11)



草刈り後



台風11号の影響で小雨、
作業中止で苗木の点検や携帯チェック(8/9)

森の研修会



第43回

「高尾の森の植生ほか」 平成26年5月31日(土)

今年度第1回の森の研修会を、5月31日(土)、真夏日の下、15名が参加し、座学を作業小屋で、林内研修を小下沢国有林で実施した。

今回の研修会のねらいは、植栽地の本格的な刈払い作業に入るに当たっての実生、萌芽している有用樹種を知り残存し、多様性に富む森づくりを目指すこととした。

講師は会員で植物の専門家でもある龍さんをお願いし、林内研修では松本さんも講師に加わり、相互に助け合いながらの先生役で、充実した一日となった。

林内研修は、主に13A植栽地で実生、萌芽更新している実情を観察・講座を受け、「コナラ」「マユミ」「ハクウンボク」「ヤマザクラ」「ネムノキ」「ホオノキ」等10種ほどを確認し、その数の多さに驚きを感じた。

参加者の皆さんは、「これでは刈払いが難しくなった」との声も聞かれたが、龍さんからは「神経質になる必要はないが、植栽して4~5年して、植栽木が草の背丈以上になれば、下刈りはいらぬ。実生・萌芽した木が勢いを増して成長もする。枯れも心配はいらぬ」との説明。そのあと、隣地の国の強間伐地で未植栽地を観察したが、多くの有用樹種の実生、萌芽更新木が見られ、植生のしたたかさに驚いた。

次回の研修は9月6日(土)、間伐作業を予定しています。

馬場隆博



森の研修&馬場さんというと何か難しい感じがするのですが、今回は『生物多様性、刈り払い現場を巡り有用樹種及び貴重植物を観る目を養う』とあったのでこれは参加しなくてはと参加した次第です。

龍さんの座学が終わり現場に着くとこれがA班植栽地、傾斜の緩い斜面には涼しい風が吹き、森の研修にはもってこいの場所です。龍さんとさらに森の達人松本さんから次々に木の名前が飛び出します。ここはA班が植栽地として地拵えする前は背丈を越すイバラの生い茂った場所でした。地拵えの際には私の山ズボンがイバラのトゲでボロボロになってしまったほどです。切り開いた後にはマユミ、ハクウンボク、ヤマザクラ、ネムノキ、ホオノキ、さらに野草のカンアオイまでが顔を出しています。

植栽地として切り開かれてから、実生、萌芽更新したのです。

森の生命力、したたかさには驚きます。これまでは自分たちが植えた木のみを考えていたのですがもう少し大きな目で森全体としてみる必要があると感じました。特に松本さんには沢山の木の名前を教えていただき楽しく有意義な研修会でした。

日比野克彦



毎年5月に植樹苗木の生育調査を実施していますが、今年は2012,2013年の苗木1,080本の生育調査と、全植栽地のうっ閉調査を行いました。下刈りのときの苗木の目印になるナンバーテープは、白色を用いました。毎年樹木は成長し山は姿を変えて行きますが、順風満帆というわけではありません。以下にその内容を報告します。

1. 植樹後1,2年目の苗木の生存率

2001年に小下沢のフィールドで植樹を始めてからずっと生育調査データを蓄積し、苗木をどこに植えると高い生存率が得られるかについて調べてきましたが、

皆伐地 < スギ、ヒノキ人工林 間伐地の樹下 < スギ、ヒノキ人工林 択伐地の樹下

の傾向があることがわかりました。2013年植栽地ではこの傾向が当てはまりましたが、2012年植栽地では皆伐地のA,C地区の方が生存率が高いという逆転現象が見られました。これらの皆伐地は最も生育条件のよい東向き斜面であるためと考えられます。

1年目の調査のときに標準木を定め2年目に再び樹高を計って苗木の成長率を見ていますが、2012年植栽地ではヤマザクラやウワミズザクラ、カスミザクラ、ヤマグリ、ミズキなどの高尾山の在来種が急速に背丈を伸ばしていることが確認できました。

今年は2月に近年まれな積雪がありました。この影響で篠竹が倒れたり苗木がお辞儀をしったりというものがたくさんありました。篠竹を刺し直し、苗木を養生するのに時間を要しましたが、救済してやれたという満足感が得られる瞬間でした。

12 A,C、13 A,C 植栽地で作業道沿いの苗木が何者かによって折られたり、篠竹につけた名札が引きちぎられたりという被害が発生しました。これまでもノウサギ、イノシシ、ニホンザルによる被害がありましたがこれほど大規模ではなく、人為によるものと推察しています。引き抜かれ

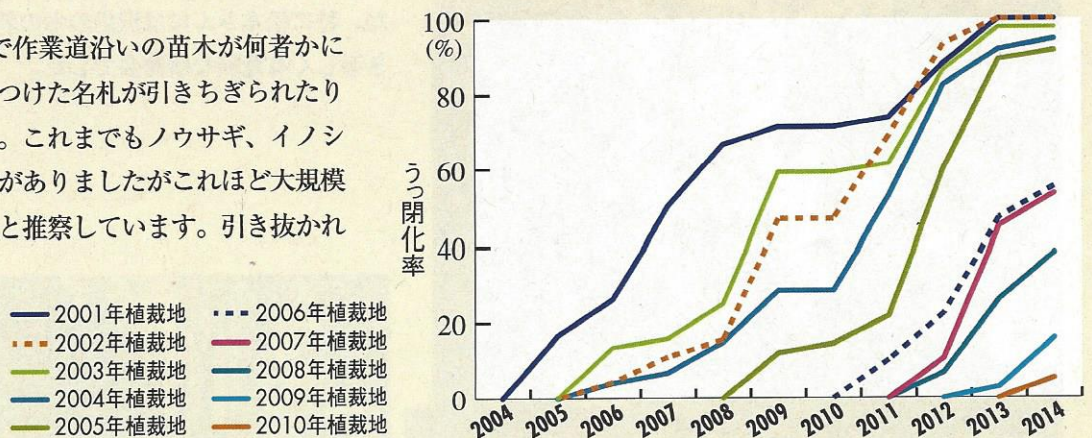
たものではないのでまた脇芽が育ちますが、成長が遅れたり、樹木の形が悪くなったりと、やはり生育上支障が生じます。

植栽地の中を歩き、育ち具合を観察し、このような被害がないかチェックする必要があると思われます。

2. うっ閉調査

その後植樹苗木が成長を続け、集団で植えた同一樹種同士の枝葉が重なり合うまでに育った苗木（樹木投影図で径3 m以上になったもの）の次の生育段階をうっ閉と定義しています。樹木の成長を、樹高何m以上とか、胸高直径何cm以上という捉えかたもありますが、うっ閉すると下層植生が少なくなり下刈りの必要性が小さくなるため、われわれはこれを苗木成長の第2段階の尺度として用いています。

高尾の森づくりの会では植樹は群状集団植樹方式により行っていますので、うっ閉はユニット単位で見ることになります。「うっ閉率」はその植栽地の中で現在何ユニットが生存し、そのうち何ユニットがうっ閉したかを比率で示します。次のグラフは各年度植栽地のうっ閉率推移を表したものです。

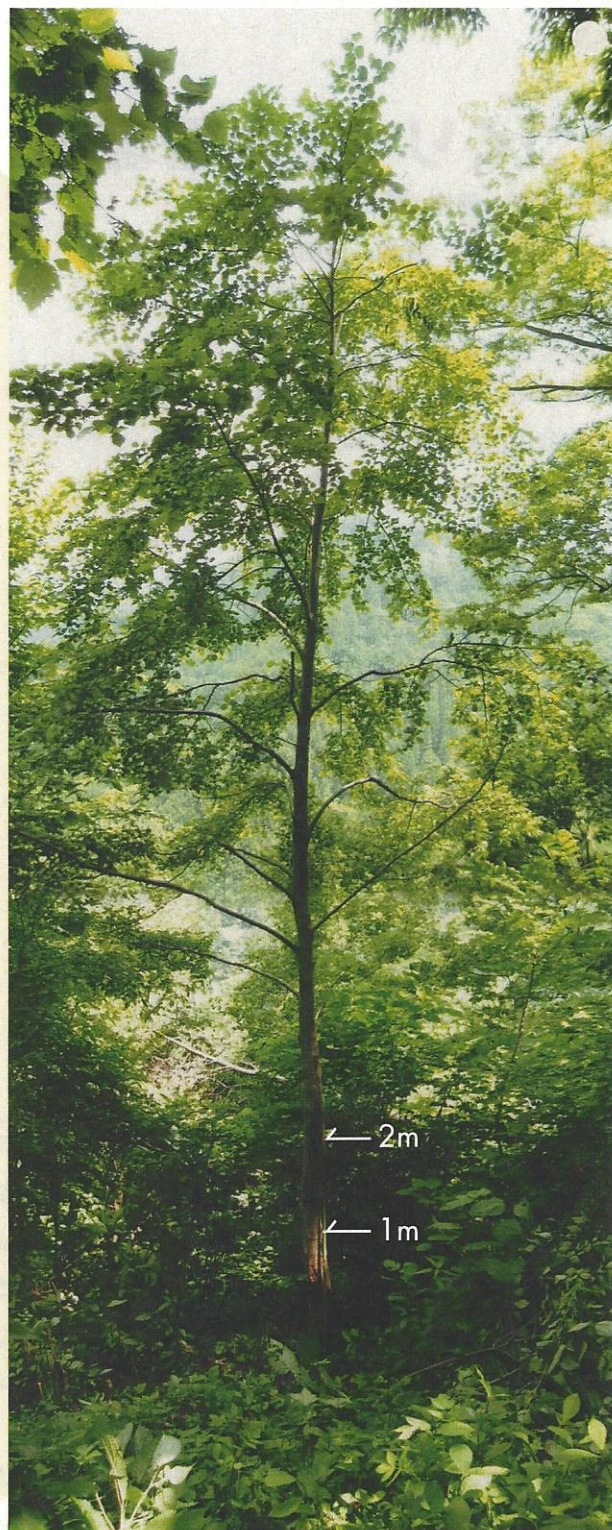


2001～2005年植栽地では90以上のユニットがうっ閉しました。また2008～2010年植栽地では最近うっ閉が始まり、急速に樹林化が進んでいます。1.項で述べたように植栽地の環境によって成長に差がありますが、このグラフからいつ頃うっ閉するかをある程度見通すことができると思います。

ユニットがうっ閉すると下刈りの必要性は小さくなりますが、そのまま順調に成長するかというと決してそうではなく、いくつかの成長阻害要因があります。これまでの例では台風による風倒・幹折れ、大雪による倒木や枝折れ、穿孔虫による枯死などがありました。またツル性植物により成長を妨げられ、放置すると樹木としての美観を損なうこともあります。毎月第4土曜日に行っている補助作業ではこのよううっ閉後の樹木の保育管理の仕事も行っています。

右の写真は2005年植栽地のヤマハンノキです。10年足らずの間に8 mほどに育ちました。しかし、すでに穿孔虫に犯されており、台風時の幹折れなどが心配です。穿孔虫に犯されやすい樹木はミズメ、ヤマグリ、ヤマハンノキ、コナラなどです。これらの樹木には細心の管理と防除対策が必要となります。

今年も大勢の仲間の参加、協力を得て調査を終えることができました。本紙面を借りてお礼申し上げます。



ヤマダラカミキリ 種



専門班紹介

「高尾の森づくりの会」では定例作業の他にも以下の活動を行っています。
参加・体験参加希望の方は各リーダー、スタッフにお尋ね下さい。

事務局 龍久仁人

物づくり・小屋管理班

正副リーダー●仲/松川

スタッフ●石井、宮本、会田、笹原、三葉ほか

活動目的●①主として森林作業で得られる材料を利用して物品を制作し、会の活動に寄与する

②トイレと小屋の維持管理を行い

快適な会の活動に寄与する

活動内容●主として木工作業、

小屋内外の整備作業（製材、工作、塗装など）。

毎週木曜日と第三土曜日にベースで活動。

集合は9時高尾駅前森林事務所、解散は略15時現地。



大狐の糸刀

事務局 保険

正副リーダー●白沢/伊東

活動目的●会活動の保険円滑化の為

活動内容●定期活動日無し

① ボランティア保険加入手続き代行（随時）

② スポーツ安全保険加入手続き代行（随時）

③ イベント保険加入手続き（4月下旬）

④ イベント保険結果申告（4月上旬）

⑤ 保険内容説明（随時）

⑥ 保険申請助言（都度）

⑦ 保険申請代行（事務局より依頼のあった場合）

道づくり班

正副リーダー●松隈茂、永田

活動目的●歩道整備

活動内容●偶数月第4土曜日（除く：雨天日）

安全班

リーダー●白沢

メンバー●伊東、渡辺

活動目的●会の活動における安全を推進する

活動内容●主な活動は定例作業日

① 定例作業日の注意事項説明

② ヒヤリ・ハット報告収集

③ 事故内容検討・対策検討

④ 安全バッグの補充材の点検・整備

⑤ 緊急連絡体制の構築

⑥ 無線機の管理

⑦ 無線機使用者の管理

⑧ 普通救命講習（所轄消防依頼）

キッチン班 リーダー●伊東

年間予定表

1月 お神酒と粕酒

2月 お汁粉

3月 お茶と菓子

4月 植樹祭/豚汁

手直し/山菜てんぷら

5月 総会/お茶と菓子（飴）

6月 お茶と菓子

7月 すいか

8月 かき氷

9月 梨

10月 お茶と菓子

11月 なめこ汁

企業接待/豚汁・赤飯・煮染め、他

12月（なし）



生態調査班

リーダー●千谷

メンバー●横川、龍、大島、松本、加藤ほか

活動目的●小下沢の活動フィールド内の

植生調査、

植物目録作成植樹地の植生推移の調査、

植樹木の生育パターン調査等

活動内容●毎月第1水曜日を

定例の活動日として活動。

集合は9時高尾駅前森林事務所、

解散は略15時現地。



苗木生育調査班

メンバー●白井、松川(征)、松田、山崎

活動目的●①植樹後12年目の苗木の生存、成長を調査し、

適地・適木や生育条件を把握し、

以降の植樹活動や保育活動に反映させる

②植栽地での苗木の森林形成状況を把握し、

以降の植樹計画や保育計画に反映させる

活動内容●①苗木の芽吹き初期段階である

4、5月に実施。苗木の成長度合いや

雨天の影響を受けるため、

活動計画は毎年その都度作成・告知

②午前8～9時に森林事務所前に集合



哺乳類撮影・調査班

メンバー●白井、山崎、横川、松川(信)

活動目的●高尾の森づくりの会では

落葉広葉樹の植樹活動を通じて

針広混交林化を進めているが、

これに伴う生物多様性の達成調査の一環として実施

活動内容●①スギ、ヒノキ人工林、植栽地、

自然林に定点にカメラを設置し、

映像情報回収と分析・報告

②原則として隔週木曜日

植樹苗木育成班

メンバー●白井、松川(征)、清水

活動目的●①高尾山の樹木種子で自家栽培した

苗木を用いることにより、

植栽地での活着や成長を高める

②遠隔地の樹木遺伝子の流入を抑制

活動内容●①高尾山での種子採取、

佐川の森の畑での播種、雑草取り、

維持管理、苗木の出荷

②作業量に応じその都度告知



機械作業班

正リーダー●白沢紀明

メンバー●馬場、寺田、松田、茂出木、黒木、
谷亀、永田、松川、高橋ほか

活動目的●機械作業による機動的かつ
効率的な森林保全活動

活動内容●

- ① 間伐（随時）
- ② 小下沢林道道（通称）東作業道等の
除草（3回／年）
- ③ 作業班の支援（支援要請の都度）
- ④ 森の研修会の研修支援、
教育（OJT）その他関連事項



コカマキリ 

募集!!

道具班では道具類

（例：鎌、ナタ、ノコ

その他）の補修に関心のある方を募集
します。

できれば平日も活動できる退職者の方
を歓迎します。

刃こぼれ修理に使うグラインダーなど
の機器もありますので、過去経験され
た方はもちろんの事、未経験者でも指
導しますので応募ください。

応募先：道具班リーダー 寺田誠

道具班

正副リーダー●寺田誠 / 永田国広、

メンバー●白沢紀明、組澤勝

活動目的●会で所有する道具類（動力機器を含む）の
維持・管理

●通年活動

- ① 定例作業日の8:00に道具小屋に集合して
貸出前の道具類確認
- ② 定例作業の朝礼・夕礼前の鉋・鎌の刃研ぎ指導
- ③ 一部数量に制限のある道具については、
定例作業前1Wを目安に貸出数と受け渡し方法を決め、
各作業班リーダーにメールで通達

●年次活動

- ① GW中、虫干を兼ねて道具小屋内の道具類について
棚卸を実施
- ② 刃こぼれた鉋・鎌で程度の軽いものは研磨して修理

●不定期

- ① 不足した道具（鎌・鋸・ロープ等）・
消耗品（動力機械の燃料・錆止めスプレー等）・
メンテナンス工具・ソーチェン等を購入
- ② 個人装備が義務付けられている道具（ヘルメット・二丁差し・
蜂ジェット）及び西山商会個人購入品の仕入・販売
- ③ 遠征作業の道具貸出（※基本的に定例作業日）



第7回 気仙沼大島プロジェクト作業報告 松隈 茂



6月20日(金)から23日(月)にかけて、
宮城県気仙沼大島にボランティアに行ってきました。
その作業報告をします。

概要

参加者：35名 延べ作業人員99名
(20日29人、21日38人、22日32人)

作業内容：

- A** 山頂上南面のアカマツ枯損木の
伐倒とその整理
- B** 小亀山道路上の倒木(1本)整理
- C** 元龍舞崎灯台跡横沼園地の
アカマツ枯損木の伐倒とその整理
- D** 龍舞崎遊歩道の倒木の整理と草刈り
- E** 椿荘敷地内危険木の整理

宿泊場所：椿荘



作業日毎の様子

20日 昼過ぎ、椿荘に集合。小雨模様のため現地視察。

21日 8時30分、椿荘玄関前集合。朝から薄曇りで絶好の作業日和。班分け、体操、集合写真撮影、14~15時作業終了。作業は、上記の**A**~**D**を行う事とし、亀山班20人と龍舞崎班18人とに分かれました。亀山は道上の箇所が丸太等が下方へ落ちないように十分な配慮が必要なところから、道路に見張りをおき、道上に1班、それ以外は道下に分かれました。**B**については、午後から**A**の精鋭により実施し、その後、**C**に回って手伝いました。

龍舞崎は、**C**の作業は、かなり専門的でそれなりの人が必要なこと及び**D**の草刈りは、刈払機を使うということで使うことの出来る人が少ないことから、人選に苦慮しましたが参加者の協力により配置が出来ました。ありがとうございました。作業は本日で何とか終了。なお、**C**の作業には、地元の新旧町内会長さんが出て、いろいろとご指示を頂いたり、冷たいお茶などの差し入れを頂いたり、一同大いに感激したところでした。

22日 8時30分、椿荘玄関前集合。曇りで雨が降るかもとの予報。班分け、体操、集合写真撮影、14時作業終了。作業は、**A**の続きと**E**で、**E**を行う前日の龍舞崎から回る4人を除き、全員**A**へ。

亀山は、道上は若干残したもののほぼ終了、道下は枯れたところが伐採され、大きく切り開かれました。椿荘は、取りあえず建物に被害を及ぼしそうなものについては終わりました。

懸念された降雨もなく作業は順調に進み、無事故で無事活動を終えることが出来ました。

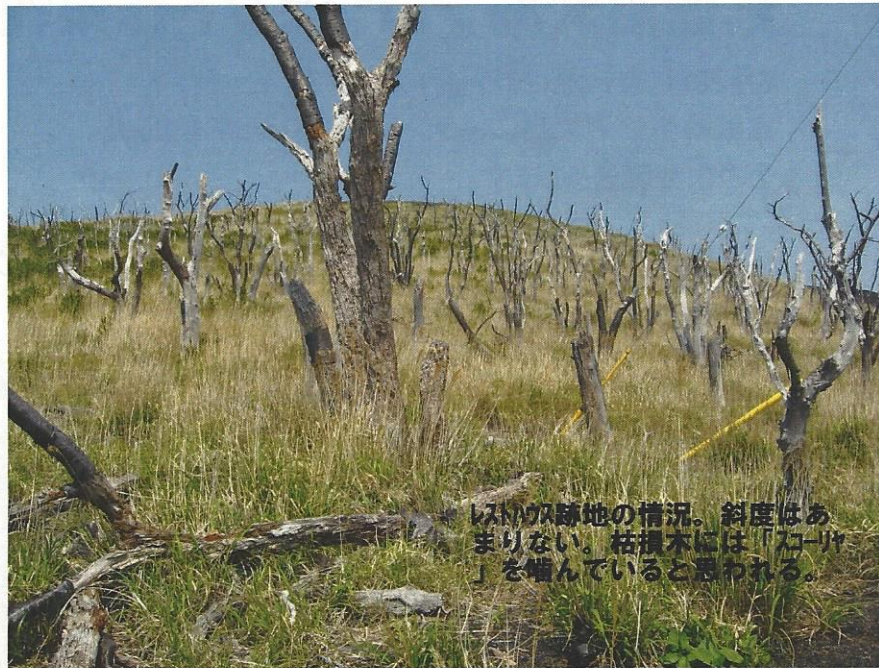


三宅島復旧支援プロジェクト報告 三宅島雄山緑化再生事業 今年の支援内容と課題

渡辺美夫

この活動は平成20年10月、東山国有林から始まった。それから早や6年になる。村役場との協定も今年で第2次を迎えることになった。延べ動員数約350名、植樹本数約8,000本を数える。島の坪田地区には公園、あるいは散策路なるものがない。我々は役場や森林組合、更に地元施工業者「伊豆緑産」の協力を得ながら「甌の穴」の公園化を目指し開鑿、整備して来た。島民の方々の「癒し場」になればと念じつつ年2回のメンテナンスを続けている。島には「植樹ボランティア」が多く来島している。それは「企業宣伝」の為であったり、「観光目的の一部」であったりする。我々の様な純然たる「緑化活動」とは言えないようだ。島は「雄山」から排出される有毒ガスにより荒涼たる姿を呈していたが、年を経るとともに枯損木も目立たなくなって来ている。しかし「緑豊かな島」と言うには程遠い景観が広がっている。我々の活動の主目的は「植樹」であり「緑化再生」である。

今年度より元「レストハウス」に近い村有地の植樹に取り掛かった。広大な地に枯損木が乱立している。(写真添付) 去る5月の活動でその一部を除伐、整理し1,000本苗木を植えて来た。ここの完了には数年を要するだろう。来る10月の活動も同じ場所の予定だ。(約1.8ha) 更に「島民ボランティア」の結成を促進し「甌の穴」のメンテナンスは移譲して行きたい。幸いにもその「目」が出始めている。大いに期待したいものだ。島には噴火による溶岩流跡や埋没した小学校跡地等観光スポットは数少ない。しかし島の自然が育んだ巨大な樹木(スダジイ)が多くみられる樹林がある胸高直径が数メートルに上る巨大な樹木だ。これを「巨木ウォッチング・ルート」として観察ルートの開鑿を行いたい。その一部は既に手がけているが今後これの完成を期したい。小さな島とは言え自然豊かな緑なす島を夢見て我々の活動は続く。



レストハウス跡地の状況。斜度はあまりない。枯損木には「コーラ」を植えていると思われる。



法人会員紹介



コニカミノルタ(株)

KONICA MINOLTA

「高尾の森通信」は、2007年5月号(Vol.26)までは、多くの会員の皆さんが協力して、日本山岳会ルームで印刷・中折・発送作業を行っていました。当時は、グリーン用の紙にモノクロ印刷で発行しており、せっかく会員の皆さまから投稿された写真も何が写っているか分かりにくく、カラー印刷化の声が幾度となく上がっていました。



THE わが班紹介★

D班

「作業D班の近況を紹介します。」

私昨年の春班長を引き受け、すでに1年が過ぎました。大きな事故もなく、無事に活動できたことは、ひとえにD班諸先輩方のご指導の御蔭であり、お礼を申し上げます。「安全で楽しい森づくり」に徹していきます。

D班は、登録会員43名と法人として富士電機、富士物流からの参加で、毎月15～20名で作業を実施しています。4月の植樹祭では、好日山荘様、河内屋様、一般の参加があり、総勢62名で盛大に実施しました。年齢的には、40代から経験豊富な70代迄幅広い陣容です。女性会員が少ないのが難点です。

D班の特徴は、持ち場が厳しい急斜面であることです。今年の植栽地では、鍬で穴を掘るにも足場が確保できず、2人1組で足場を確保しながらの植樹となりました。下草刈りと並行して昨年の植栽地では、土砂崩れの予防として土留め柵を3ヵ月かけ、構築しました。9月からは、間伐作業を永田新道沿いの急斜面で昨年に引き続き実施します。間伐の後始末を行い、「美しい森」にします。

厳しい環境下で安全に作業できているのは 経験豊かな松川さん、鳥山さんに代表される先輩方々の支援と、多くの中堅メンバーの積極的な行動と連携によるものと考えています。

反省点として、皆様が元気もので時々年齢を忘れてしまうことです。年齢を考えながら、楽しい作業を心掛けます。

仁藤正夫



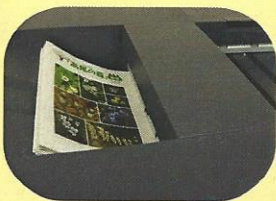
情報のカラー印刷に
協力していきます！

コニカミノルタはOBのS氏の誘いにより、2003年から法人会員になっていますが、従業員が参加し始めたのは、2004年4月の植樹祭からです。定例作業にもコンスタントに参加するようになった頃、会報のカラー化の要望が耳に入るようになりました。カラー複合機やデジタル印刷システムを中心とする情報機器事業が売り上げの約7割を占めており、会のご要望にお応えしたく2007年8月号（Vol.27）よりカラー印刷に協力することになりました。折しも、東京サイト日野構内にデジタル印刷システムを導入したプリ

ンティングセンターを設立し、印刷の外販に対応できるようになったこともあります。

この業務は現在、昨年設立した特例子会社コニカミノルタウイズユー株式会社に引き継がれています。特例子会社は障がいのある方々を雇用し、自立を支援している会社です。デジタル印刷および付帯業務の外販やグループ内サービス業務を行っています。コニカミノルタウイズユーの社員とともに、これからもきれいな印刷を皆さまにお届けしたいと思っています。

小木曾裕子



事務局からのお知らせ

主な作業・行事記録

5/23~25 三宅島緑化再生プロジェクト	のべ82人
5/31(土) 第43回森の研修会(植生ほか)	15人
6/14(土) 定例作業(下刈り)	148人
6/20~23 気仙沼大島復興プロジェクト	のべ99人
7/12(土) 定例作業(下刈り)	66人
8/9(土) 定例作業(下刈り)	62人
8/23~24 父子キャンプ	のべ240人

今後の主な作業・行事スケジュール

9/6(土) 森の研修会(間伐作業ほか)
9/13(土) 定例作業(下刈り、間伐)
9/20~25 ラオスプロジェクト植樹ツアー
10/11(土) 定例作業(間伐)
10/12~14 美林見学(天竜林業)
10/17~19 三宅島緑化再生プロジェクト
11/8(土) 定例作業(間伐)
11/14~17 気仙沼大島復興プロジェクト
11/22(土) 臨時作業(法人交流紅葉鑑賞会)

第3(土)・
毎週(木)
ものづくり・
小屋管理班作業日
第1(水)
生態調査班作業日

● 集合場所：定例/臨時作業は高尾森林事務所前広場

● 集合時間：9:00までに集合して順次マイカー相乗りでベースへ移動します。(ベース9:20集合)

● 参加連絡：事務局/龍久仁人あてご連絡下さい。

E-mail: JACtakao@JACtakao.net Fax: 048-254-2852 はがき: 〒332-0031 川口市青木1-21-7-402

● 定例作業への体験参加を希望される方は、上記事務局あてに申し込み(住所、氏名、電話、メールアドレス記載)の上、集合時間前までにおいでいただき、受付を行ってください。

第13回 三宅島緑化再生プロジェクト

2000年の噴火とその後の火山ガスで被災した森林の再生活動を行います。森林作業初めての方歓迎。

日程 ● 2014年10月17日(金)~19日(日)
(10月16日(木)22:00 東海汽船乗船)

作業場所 ● 三宅村阿古地区「小松平」「甌の穴」ほか

作業内容 ● 被災地の植樹、園地整備、道作り

参加費用 ● 27,000円(往復の船賃、宿泊代、島内バス代を含む。)

参加費用 ● 渡辺美夫 watanabe-y@c3-net.ne.jp TEL/FAX 045-893-1952

第8回 気仙沼大島震災復興プロジェクト

東日本大震災で傷ついた森林の整備復旧活動を通じて震災復興をお手伝いします。

日程 ● 2014年11月14日(金)~17日(月) 出入り自由、作業無しでも歓迎。

作業場所 ● 気仙沼大島

作業内容 ● 被災マツ林の伐倒、間伐、遊歩道整備等

参加費用 ● 交通費自己負担 宿泊費は、民宿1泊当たり9,500円~、テント利用不可

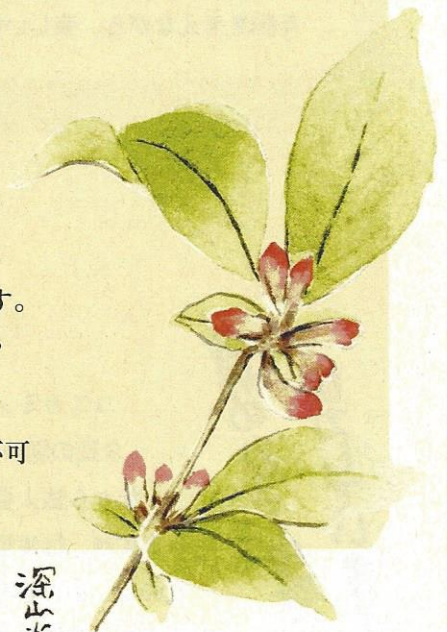
参加費用 ● 日比野克彦 hibi1942@y3.dion.ne.jp TEL/FAX 042-342-4673

入会者紹介

5月以降次の方が入会されました。

酒井えりな 佐藤元紀 中杉健
山口久夫 永井智子

イベント参加案内



深山谷瘦し



編集後記

健康上の理由で次号第56号(11月発行)より編集担当を交替します。これまでのご協力に感謝申し上げます。

(松田)

日本山岳会 高尾の森づくりの会「会員名簿」を発行します。

発行予定月……2014年11月(会報誌11月号と併せてお届けする予定です。)

名簿の内容……①お名前 ②住所 ③電話番号 ④メールアドレス

掲載を希望しない方へ

① 2014年9月末までに下記連絡先まで申請願います。

② 未掲載の内容もあわせて連絡願います。

例えば、①の住所から④のメールアドレスまですべて未掲載、電話番号とメールアドレスのみ未掲載……など

お問い合わせ先 川久保芳男 0466-81-1539 kawa440@ak.wakwak.com
松川征夫 042-644-6970 sxyqw679@yahoo.co.jp

